

令和3年度 第1回地方独立行政法人京都市産業技術研究所

評価委員会 会議録

日時：令和3年8月19日（木）午前10時～正午

場所：京都市産業技術研究所 ホール

議題：（1）議題：委員長の選出及び委員長代理者の指名

（2）令和2年度の業務実績評価について

（3）第2期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間における業務実績評価について

（4）中期目標の期間終了時の検討及び措置（案）について

議事要旨：

【1 開 会】

- ・北村 京都市産業・文化融合戦略監からの挨拶
- ・「行財政改革計画 2021-2025」について京都市から説明

【2 議 題】

（1）委員長の選出及び委員長代理者の指名

- ・吉本委員を委員長として選出。
- ・吉本委員長が宮本委員を委員長代理に指名。

（2）令和2年度の業務実績評価について

～事務局から評価の流れの説明～

～京都市から資料1に基づき、令和2年度業務実績評価（案）の説明～

- ・以下、各委員の質問・意見など（○：委員，●：京都市，◎：産業技術研究所と表記）

○：京都市の案について、御意見・御質問はあるか。

○：20ページの評価コメントの中で、「ORT事業+派遣指導の件数」が50件ということであるが、昨年度から半減している。例えば、オンラインで50件開催したことを勘案しA評価ということなら分かるが、そうではなく顧客満足度が高かったためA評価としている。数字は半減しているのに、顧客満足度が高いからA評価とするのはいかがなものか。

- ： 今年度はコロナの感染拡大により、来所いただくことが難しいという状況の中で、最大限努力したものの、利用が減少した。その点を加味し、A評価とさせていただいた。
- ： 他にも同じように、数字が減少したものの顧客満足度が高いという理由でA評価としている項目が多い。実際は昨年度の半数の人にしか満足してもらえていないということになるが、A評価とするのはいかがか。
- ： コロナに関する影響は不可抗力であり、産業技術研究所（以下、「産技研」という。）の努力ではどうにもならないことである。しかし、昨年度の100件から今年度50件に件数が減ったことについては評価をせずに、顧客満足度が高いということで評価しており、誤解を招く可能性がある。コロナの影響は加味せず、それ以外の部分で評価しているということが分かるような修正を検討する。
- ： コロナの影響で、多くの項目で実績が昨年度と比較し、減少しているものの、顧客満足度調査の結果が良かったから、A評価となっている項目が多いという印象を受けた。コロナの影響で実績が下がった部分については、正当に評価された方が良いと思う。顧客満足度の数値により評価を上げるより、実績は昨年度に比べて下がったということをそのまま示し、努力をしたことについては、コメントに記載する。それを評価に加えてしまうと、すり替えのように感じるので、別の評価とした方が良いと思う。

また、30ページの「2 収入の確保」について、自己収入は確かに減っている。産技研で稼ぐ部分について上手くいかなかったのはある程度仕方ないが、評価コメントでは、収入は減っているが、事業支出も減り、結果的に収支は黒字になったとしている。これは収支の差額のことであり、「収入の確保」をストレートに表していることではないため、この記述については考慮いただきたい。
- ： 「収入の確保」については、御指摘のとおりである。御意見を踏まえて修正させていただく。
- ◎： 顧客満足度調査については、令和2年度の1年間に産技研を御利用いただいた1,311名の方に、郵送やインターネットで回答いただいたものである。回答率は44%。574名の方から回答をいただき、①利用の目的が達成できたか、②利用時の産技研の対応について満足したか、の2点

を調査した。「十分達成・満足できた」「ある程度達成・満足できた」「わず
かしか達成・満足できなかった」「達成・満足できなかった」の4項目のう
ち「十分達成・満足できた」「ある程度達成・満足できた」の回答を集計し
た結果、どの項目においても85%以上となったことから、産技研の対応
について評価いただけていると考えている。

- ◎： コロナ禍において、公的機関では来所いただくことを控えているという
状況である。営業時間が短縮されている中、民間であれば四半期ごとに内
容を精査し、上方・下方修正を行うが、我々のような公的な機関はすべて
1年単位であり修正が難しい。

また、外部資金については、研究成果を客観的に評価してもらわなけれ
ば、助成金が取れない。例えば、外部資金の中には科学研究費助成事業が
あり、大学でも同様に申請をするが一般には平均して約3割しか採択され
ない。産技研から応募した件数は少ないが、採択率は5割を超え大学より
も高くなっている。外部資金の獲得は、営業努力ではないが、研究の努力
の結果である。

一方、私は、所員に対して、コロナ禍で利用者に対しては来所いただくこ
とを控えてもらうが、逆に活動時間ができたため、もっと論文の執筆に力を
入れて欲しいと言ってきた。それによって研究費が取れば、地域企業等に
役立つ技術の開発に繋がる。しかし、今年度の論文の執筆数は減っており、
その点を厳しく指摘した。

このような観点から、今回御指摘の部分については、私個人の見解として
は評価システムの制度上の課題が大きいと考えている。

- ： コロナの影響で、研究会や学会は完全に止まっていたため、年度の前半
はほとんど数字の上げようがないと言う状況だったが、後半は回復し、数
字が上がっている項目も多いと思う。前半と後半で数字を比較し、回復し
ているということをコメント等で補足していただけると良いのではないか。
論文の執筆件数が減っているのがやはり気になるが。

- ◎： この指標は、論文の執筆件数に加え、学会・協会での発表件数や専門誌
への執筆件数の合計件数である。昨年春はどの学会や研究会もストップ
していた。満身に研究発表が出来ない状況の中で、産技研においても予定
していた発表が中止となるなど影響が大きかったと認識している。

- ： 論文の執筆件数だけでなく、学会等での発表件数も含まれるなら、減

っているのは理解できる。

- ： 資料1の19ページ、「ORT事業+派遣指導の件数」がコロナの影響で大幅に減っているのに、利用満足度が100%だからA評価というのは、やはりいかなものか。
- ： 企業で言うと、減収増益。売上が下がっているのに利益が出ているのは、何か他の要因があると考え、A評価は付けないだろう。民間企業の人間からすると違和感がある。
- ： 研究会活動のみB評価で、他はすべてA評価となっている。これは、研究会の会員である自分のこととして胸にグッときた。コロナ禍で、研究会活動は様々な制約があったと思うが、これからの研究会活動は、活動の中身も大事だが、会員数を増やすことも大事だと思う。若手に興味を持ってもらうことが大事。コロナ禍においても、産技研の利用者数は伸びてきているのに、研究会に入るということに中々繋がっていないと感じる。今後の産技研の研究会活動のあり方を、会員も含めて、一緒になって考えて行く必要があると思う。
- ◎： おっしゃるとおり、産技研においても研究会活動は非常に重要だと考えている。ものづくり協力会及び10の研究会を核とし、様々な業種で構成されており、異業種連携の中で新しいものを生み出していきたいと考えている。そのために会員数を増やしていく必要性も認識している。コロナの影響で見学会や体験等が低調となったが、収束を見据え、今後研究会活動の更なる活性化を図ってまいりたい。
- ： 集約すると、数字が低いのにA評価としていることについての意見が多い。目標値を大幅に下回っている研究会活動についてはB評価となっているが、「ORT事業+派遣指導の件数」も達成率59%と低い。後半に数字が伸びているのであればA評価でも良いが、年間を通じて、後期にも数字が伸びていないのであればA評価は難しいのではないかと。精査していただく必要があると思う。
- ◎： ORT事業は、企業の技術者のスキルアップのため、企業から産技研に技術者を受け入れ、研修を行う制度である。コロナの影響を大きく受け、利用を控えていただかざるを得ないという状況であった。一方、現状の○

RT事業をもう少し企業に使ってもらいやすいよう、産技研の別のメニューも活用し、工夫しながら実施しているところである。

- ： この場で結論を出すのは難しいため、前半・後半の実績等をコロナの影響と合わせて精査し、評価についても再度検討する。
- ： 承知した。他に意見はあるか。
- ： 23ページの「情報発信の強化」について、大変力を入れておられると思う。数値目標「メールマガジン登録者数」は、目標値をわずかに達成しなかったが、産技研のHPやYouTubeを見ると、内容が大変充実しており良かった。子供にももっと楽しんでもらえる工夫も出来ると思う。京都市の評価コメントの中で、もう少し具体的にどのような情報発信を行ったか、それに対する反応も含めて記載してはどうか。
- ： おっしゃるとおり、情報発信には非常に力を入れている一方、中々市民の皆様十分に伝わっていない点が反省点である。御指摘を踏まえ、評価コメントを検討する。
- ： それでは、議題（2）の審議については、以上とする。

（3）第2期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間における業務実績評価について

～事務局から評価の流れの説明～

～京都市から資料2に基づき、第2期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間における業務実績評価（案）の説明～

（4）中期目標の期間終了時の検討及び措置（案）について

～京都市から資料3に基づき、中期目標の期間終了時の検討及び措置（案）の説明～

・以下、各委員の質問・意見など（○：委員，●：京都市，◎：産技研と表記）

- ： 議題（3）（4）の京都市の説明について、御意見・御質問はあるか。
- ： 資料2の3ページに「産技研の『見える化』を常に意識しながら」と書

いてあるが、一番分かりやすいのは費用対効果だと思う。例えば、ランニングシューズや京都酵母を使用したお酒について、売上や利益、雇用の創出等について、数字で示していただけると分かりやすいと思う。

- ： どれぐらい貢献できているのか、そのような観点も踏まえ、今後示していきたい。
- ： 先ほども産技研が中々認知されていないという話があったが、市民や地域社会に対して産技研がどういうスタンスであるかが大事だと思う。地域社会にどれだけ貢献をしているのか、市民に対する「見える化」を進めていただきたい。
- ： 2ページの全体評価については、大変良い内容が書かれていると思う。また、利用者の満足度は高いということだが、良かったかどうかだけではなく、その回答をもっと深く掘り下げていただきたい。過去に産技研を利用したことがある方にも調査対象を広げるなど、利用者の声を拾っていただければ、更なる改善につながるのではないかと思います。
- ： 「どこに何を相談したら良いか分からない」と感じている起業をして間もない方にも相談に来てもらえるような支援機関になってほしい。
- ： 産技研以外にも、京都高度技術研究所（ASTEM）や経済センターでは経営相談など、市・府・産業界が連携したオール京都体制でのネットワークがある。起業して間もない方には、それらの機関において、コーディネーター等が相談者にとって最適な場所を案内することも出来る。また、産技研の中にはバイオ計測センターが入っており、ライフサイエンス関係の計測・分析機器の利用について、研究員から指導を受けていただくなどの取組も行っている。委員がおっしゃったように、「何を相談したら良いか分からない」と感じている方のフォローについても、今後更に検討していきたい。
- ： 2ページの全体評価に記載されている「自主財源の確保」について、大学においても近年は、学内利用であっても利用料金を取る流れもある。それはメリハリをつけるというプラスの効果もある一方で、採算だけを考えると逆効果になってしまうこともあり、匙加減が難しい。大学に似た公的

な機関としての財源確保については、大学側の立場としては、熟慮いただいた方が良くと思う。

- ： それでは、議題の審議については、以上とする。

- ： 本日いただいた意見を踏まえて、京都市長へも報告の上、京都市としての評価を確定させる。
その後、「令和2年度の業務実績評価」及び「第2期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間における業務実績評価」については、9月市会（議会）において、京都市長から、市会へ報告する予定となっている。合わせて、ホームページでも公表する。

【閉会の挨拶】